

学校名	嬉野市立嬉野小学校			
1 前年度 評価結果の概要	・学力の向上や心の教育については、校内研修等により全職員で共通理解・共通実践ができており、目標を達成することができた。 ・挨拶は、少しずつ良くなっているが、継続して指導を行っていきたい。 ・働き方改革については、上半期に比べると職員の時間外勤務時間が減ってきた。引き続き、行事や会議を精選するなど働き方改革を推進する。			
2 学校教育目標	「やる気」・「笑顔」・「元気」 未来をつくる嬉野っ子の育成			
3 本年度の重点目標	①確かな学力の育成，校内研究の推進 ②人権・同和教育，学級経営，特別支援教育，教育相談の充実 ③健康・体づくり，特別活動の充実 ④生徒指導の充実，安全教育の推進 ⑤保護者・地域コミュニティとの連携推進			
4 重点取組内容・成果指標				
(1)共通評価項目				主な担当者
	重点取組			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
●学力の向上	○学習習慣の育成と定着	○家庭学習の目標時間(10分×学年+10分)を達成した児童80%以上	・目標時間を達成できるくらいの課題を設定したり、自主学習の取組例などを紹介したりする。(学期1回) ・家庭学習のノートやプリント、または連絡帳などの振り返りに取り組んだ時間を記録させることで目標時間を意識させる。	やる気P
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳や人権の学習で学んだことや考えたことを日常生活に生かそうとする児童85%以上	・人権学習や平和学習を行い、児童の人権意識を高める。	笑顔P
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの未然防止と早期発見の対応が向上したと感じる職員を90%以上	・「先生あのねカード」やQUアンケート等を実施し、いじめの早期発見に努める。 ・心のアンケートを実施し、その結果をもとに教育相談を設定して対応を図る。	笑顔P
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・教育相談週間で1人1人の児童と話す時間を設ける。(年1回) ・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・夢を実現した方(卒業生)の体験談を聞く機会を設ける。(11月)	笑顔P
	◎体験活動を通したふるさと「嬉野」を愛する心の育成	○ふるさと「嬉野」の良さを知ることができた肯定的な回答をした児童80%以上	・多くの場面(教科・特別活動・PTA活動等)で地域人材や地域教材を活用した教育活動を実施する。 ・活動後には振り返りを行い、児童の思いや学びの足跡を発信するようにする。 ・キャリアパスポートを作成し、活用する。	開かれたP
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」 ⑤「健康を考えて行動できる能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う日が1週間で3日以上児童80%以上 ②「健康に食事は大切である」と考える児童95%以上	・屋休みに週3回以上外で遊ぶ日を設定し、可視化する。 ・いずみ朝会等で外遊びを啓発する。 ・学校栄養職員による授業実践を全学年で実施する。	元気P
	○あいさつ・無言掃除・廊下歩行の充実	○「学校独自成果指標・任意」 ○「あいさつ・返事がよくできる」。「無言掃除ができる」。「廊下は静かに歩く」児童90%以上	・相手を思いやる嬉野小学校を目指す合言葉のもと「四つ葉のクローバー大作戦」を行い、児童の生活への意識を高める。 ・無言掃除を徹底するために臨場指導を行う。 ・学校のきまりに沿って、廊下は静かに歩くように随時指導する。	安心・安全P
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○月の時間外在校等時間が45時間を遵守した職員の割合75%以上	・毎週金曜日を定時退勤日とし、実施を徹底するように職員へ呼びかける。 ・毎月の時間外勤務の時間数の概要を知らせて、削減を意識するようにする。 ・学期末の反省をもとに、業務の見直しを検討する。	管理職
	○職場環境の整備と職員のけがの防止	○「学校独自成果指標・任意」 ○職場環境について相談しやすい、働きやすいと肯定的な回答をした職員80%以上	・職員同士が互いに声を掛け合い、話しやすい雰囲気づくりに努める。 ・希望する職員とスクールカウンセラーとの面談の機会を設定する。 ・報告・連絡・相談ができるように毎週火曜日の学年会を設定し実施する。	管理職
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○「学校独自成果指標・任意」 ○特別支援教育に関するスキル向上を意識して研修・実践をしている職員を85%以上	・特別支援教育に関する研修を年2回以上行う。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に全職員に情報を発信し、共有する。	笑顔P
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				主な担当者
	重点取組			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
○情報を収集し、活用する能力の育成	○授業づくり・環境づくりの充実について校内研究を行いながら共通実践を行う。	○児童の新聞に対する興味・関心及び、情報の収集・活用力の向上を意識した授業づくりに努めていると回答した職員85%以上。	・児童が新聞を読もうと思えるような学校環境を整える(学期ごとに環境の整備を行う)。 ・保護者への取組を紹介する。(学校便り)	研究主任・副主任